

IV 施設改修計画

IV 施設改修計画

最新技術の導入により、貴重な資料の保存環境と 展示演出の充実をはかります

1. 改修にあたっての基本的な考え方

現在文化センターは完成から20年以上が経過することから、利用者のニーズの変化や、既存の設備の老朽化や旧式技術による不備、収集・蓄積した資料・情報の増大化に対応し、将来を見据えた改修工事を目指すものとし、改修にあたっては以下の基本方針のもと整備します。

特に展示施設において重要な収蔵庫については、貴重な資料の保存環境を最適な環境に整えるよう改善をはかるものとします。

●施設・設備の老朽化を改修し、最新技術の導入

最新かつ環境配慮型の技術を取り入れ、さらなる施設機能の向上を図る改修を行います。

●保存科学的な配慮による収蔵環境の確立

貴重な資料を永続的に適切に保管するため、資料の保存環境に配慮した収蔵庫を整備します。

●ユニバーサルデザインの導入

開館当初に比べ、高齢者層の増大等社会的な背景も大きく変化しています。こうした中これらの施設は、身障者を含め様々な利用者に対しさらなる配慮が必用とされています。ユニバーサルデザインの視点をもった、あらゆる人に優しい施設を目指すものとします。

2. 建物の概要

1. 概要		
建物名称	石巻文化センター	
建設地	宮城県石巻市南浜町 1-7-30	
主要用途	複合施設	
事業主体	石巻市	
開館	昭和 61(1986) 年 11 月 2 日	
2. 敷地状況		
敷地面積	11,796.28 m ²	
都市計画区域の別	都市計画区域内	
用途地域	第一種住居地域	
防火地域	なし	
法定建ぺい率	60%	
法定容積率	200%	
前面道路	東側 12m 道路、北側 9m 計画道路、南側 9m 計画道路	
3. 構造		
構造	鉄骨鉄筋コンクリート (SRC) 造 2 階 搭屋 3 階建て	
最高高さ	28m	
4. 建築面積	3,615 m ²	
5. 延床面積	5,979 m ²	
6. 設備 (現状)	消火設備 空調設備 駐車場	屋内消火栓・ハロンガス消火設備・消火器
		装置: ガス焚冷温水発生器、水熱源チーリングユニット、真空式温水器 空調: ファンコイルユニット方式、空気熱源ヒートポンプパッケージ (単独系統) 制御: 空調 電子式および電気式 排煙: 機械排煙方式
		普通車 77 台、大型 5 台 (敷地内)

4. 改修予定の諸室

□1階

1) エントランスホール、受付

①現状の問題点

文化センターの主要部門である多目的ホールと博物館共用のエントランスホールである。しかし、文化センターの顔としては、天井が低く外光が入らないため、暗い印象がある。エントランスホールに面する受付も目立たないため十分機能していないと思われる。



▲エントランスホール



▲受付

②改修方針

イメージを一新するために天井部に光天井を設置する。内装は白色系に変更し、明るいエントランスホールを目指す。また、受付についても内装・什器を新規に整備する。サービスしやすく、明るいイメージを創出する。

受付についても、明るいイメージを検討する。

③具体的な改修項目

ア) 内装の改修

イ) 光天井の設置、一般照明入れ替え

ウ) 空調設備の調整



＜改修イメージ＞明るいエントランスに改修。天井は光天井



＜受付改修イメージ＞

2) グランドホール

①現状の問題点

2階の展示室に導入する大階段を有する空間である。しかし、2階へのアプローチを促す演出が乏しく、展示施設としての印象が薄くなりがちである。



▲グランドホール

②改修方針

導入部分としてシンボル展示等の設置を検討する。

③具体的な改修項目

ア) シンボル展示の設置



〈ホール改修イメージ〉

3) 休憩コーナー

①現状の問題点

第1研修室付近にあるロビーの休憩コーナーには芝生広場へ出ることが出来る開口や自動販売機が設置されている。休憩用のイスはあるが、十分リラックスできる環境ではなく、屋外との一体感等が活かしきれていない状況である。



▲休憩コーナー

②改修方針

屋外の芝生広場を眺めながらお茶を飲める、明るい雰囲気の休憩スペースとする。

③具体的な改修項目

- ア)内装の改修
- イ)カフェ什器の設置
- ウ)サッシの一部取り替え



＜改修イメージ＞自販機の飲み物が飲めるよう、カウンターやテーブル、イス等を設置

4) 毛利コレクション収蔵庫（旧第一収蔵庫）：124 m²**①現状の問題点**

当センターで最も規模の大きい収蔵庫で、内部には2層構造のデッキとモービルラックが設置されている。デッキの2階部分は天井が極端に低く作業性に乏しい。吹き出しなどの空調器具はあるが、空調設備につながっていない為、稼動しない状況である。



▲第一収蔵庫内のデッキの2層部分



▲第一収蔵庫内のモービルラック

②改修方針

今回の改修では空調設備を導入し、二重壁・天井・床構造により庫内密閉度を高めて温度変化を抑える方法を採用する。内壁材には高調湿材を使用し、空調停止時の湿度変化を抑える。また扉についても密閉度の高い収蔵庫扉に変更する。工事の際には、既設のデッキとモービルラックの移設が必要になる

③具体的な改修項目

- ア) ハロンガス消火設備の導入
- イ) 新規空調設備の導入
- ウ) 内装の改修

5) 一般収蔵庫（旧搬入口）：40 m²

①現状の問題点

現在の搬入口は、ほとんど利用されていないため、一般収蔵庫として利用可能な改修を行う。



▲搬入口内部

②改修方針

トラックヤードであったため、搬入口と前室ではフロアレベルが1m下がり、新設の床が必要である。また、シャッター撤去後の開口部もふさぐ必要がある。工法としてコンクリート打設はアルカリガスを発生させるため採用せずに鋼製床や乾式工法を採用する。問題点としては空調設備が無いため、収蔵する資料の種類には注意が必要である。

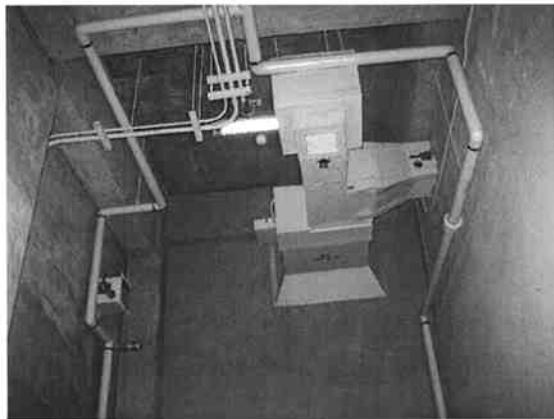
③具体的な改修項目

- ア)内装の改修
- イ)一般照明入れ替え
- ウ)既存機器の撤去

6) 資料倉庫（旧燻蒸室）：17.7 m³

①現状の問題点

現在の燻蒸室はすでに燻蒸設備が撤去されてその機能を有していない。



▲燻蒸室内部

②改修方針

収蔵庫としての設えにするには規模も小さいため、資料倉庫として活用可能なように改修を行う。

③具体的な改修項目

- ア) 内装の改修
- イ) 一般照明入れ替え
- ウ) 既存機器の撤去

□ 2階**1) 常設展示室****①現状の問題点**

今回の改修計画のなかで最も主要な部分である。開館当時からの展示はそのままで手法や照明設備は旧式になっており、大幅な展示改裝が必要である。



▲歴史展示室内部

②改修方針

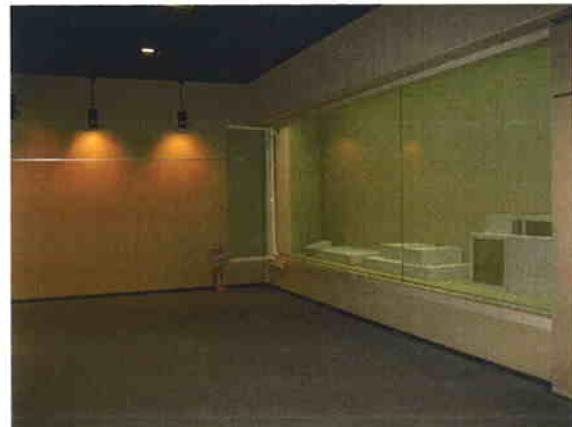
経年変化による設備面の改修をはじめ、資料の展示替えのしやすいシステムの導入、新しい展示構成・ストーリーに基づく展示改修を行う。

③具体的な改修項目

- ア) 内装の改修
- イ) 展示改裝
- ウ) 展示照明・一般照明入れ替え

2) 企画展示室**①現状の問題点**

既存のスライディングウォール（可動間仕切り）は、旧式のため移動するのに大変重く操作性に問題がある。展示照明も旧式のため照明効果に問題がある。



▲美術・企画展示室内部

②改修方針

間仕切りなどの基本的な機能を変えずにスライディングウォールなどの入れ替えを行う。

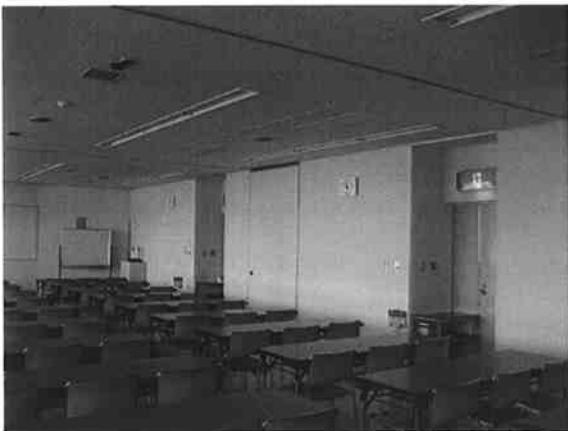
③具体的な改修項目

- ア) 内装の改修
- イ) 展示照明・一般照明入れ替え
- ウ) スライディングウォール（可動間仕切り）の入れ替え

3) 毛利コレクションミュージアム（旧4・5・6研修室）：159.3 m²

①現状の問題点

新たに毛利コレクションを保存展示するため、今まで研修室として使用してきた3つの部屋を展示室へ改修を行う。



▲4・5・6研修室内部

②改修方針

本来、研修室として整備されているため展示室として整備されていない状況である。資料展示可能な空間として機能させるため、内装も設備含め全面的な改修を行う。

③具体的な改修項目

- ア) ハロンガス消火設備の導入
- イ) 新規空調設備の導入
- ウ) 外光を遮蔽するため開口部を塞ぐ
- エ) 排煙に必要な設備の設置
- オ) 一般照明入れ替え、展示照明設置
- カ) 既存什器の撤去 等

4) 先人展示室（旧 WC）：50 m²

①現状の問題点

常設展示室隣接の既存の男女トイレを先人コーナー展示室に改修する。



▲トイレ入口



▲男子トイレ内部

②改修方針

現在はトイレであるため、内装や設備も改修を行う。今回の計画の歴史展示室と先人展示室をつなぐため建築の躯体壁の撤去を行う。構造面の再度の検証が必要である。

③具体的な改修項目

- ア) 歴史展示室とつなげるための開口部の設置と躯体壁の一部撤去
- イ) 新規空調設備の導入
- ウ) 排煙に必要な設備の設置
- エ) ハロンガス消火設備の導入
- オ) 一般照明入れ替え、展示照明設置
- カ) 衛生器具等の撤去 等

5. 内装改修の方針

内装改修については以下の方針のもとを行うこととする。

- 1) 廃棄物の低減に留意する。
- 2) 改修・撤去により出た材料についてリサイクル可能な資源の活用を図る。
- 3) 石材等耐久性の高い建築・設備材料を選定する。
- 4) 省エネルギー・長寿命・環境配慮に留意する。
- 5) 経済寸法で無駄のない材料選定を行う。

6. 設備改修の方針

1) 空調設備計画

現状では第一収蔵庫には当初から空調設備が設置されていなかった。しかし将来工事を見越してのダクト工事は行われており、今回この1系統のAHU（冷温水によって冷暖房を行う装置）等を新設して毛利コレクション収蔵庫の空調を稼働させることになる。また、毛利コレクション展示室は本来、研修室のため一般空調であったので展示室にみあう空調とするため既存ダクトの延長を含む大幅な空調改修を行う。しかし、当時と同じ空調設備を入れ替えるだけでなく、最近の環境に配慮した機器の検討も行う必要がある。

2) 消防設備計画

消防設備は従来、自動火災報知設備、ハロンガス消火設備、消火器、誘導灯、屋内消火栓設備が設置されていた。今回の改修に伴い、屋内消火栓設備対応であった、一般収蔵庫（旧搬入口）・先人展示室（旧創作室）・毛利コレクション展示室（旧4・5・6研修室）についてはハロンガス消火設備を増設する。

7. 収蔵庫改修の方針

1) 収蔵庫に求められる保管機能

通常、収蔵庫は、外気の入らない密閉度の高い建築物の中で、空気層を設けた二重壁・二重床・二重天井の中に設置されることが理想である。当センターの特別収蔵庫では、さらに内壁材に高調湿材を使用して空調停止時の湿度変化を抑え、また扉についても密閉度の高い収蔵庫扉に変更するなど、新しい収蔵庫設備の導入を行う。

また、以下のように資料の特性に合わせた収蔵設備を考慮する必要がある。

- ・毛利コレクション収蔵庫（旧第一収蔵庫）：毛利コレクションを保管するため、収蔵資料に適した恒温恒湿環境を実現可能な特別収蔵庫とする
- ・一般収蔵庫（旧搬入口）：民具や劣化しにくいものなどを保管する収蔵庫とする

2) 新しい収蔵庫の考え方

①緩やかな温度変化を実現する

高い断熱性能を有する収蔵庫とすることで穏やかな温度制御を行う。

②恒湿空間を実現する。

高い調湿機能を有する内装材(珪藻土系)の選定や繊細な空調制御により湿度を一定にする。

③資料に配慮した送風

空調機器による送風に配慮するが、資料への直接の送風を避ける。

④汚染物質の発生を抑える

コンクリートをなるべく使用しないことでコンクリートからの汚染物質の発生を無くす。仕上げ材料にも同様の配慮を行う。

V 展示改修計画

V 展示改修計画

1. 展示の基本的な考え方

毛利コレクションを活用し、定期的に展示替えしながら、 石巻の歴史・文化を伝える展示を充実します

展示の改修にあたってはこれまでの館の活動・成果を踏まえるとともに、展示全体で定期的に展示替えをしながら、常に新しい情報を提供可能な展示を目指します。展示は以下の方針のもと構成します。

●「大河と海上の道」をテーマに、可変性に富んだ「常設展示」

常設展示は、石巻の歴史・文化を最も象徴的に表す展示の核となる場です。鋳銭場・製塩など石巻ならではの歴史・文化資源をもとに、これまでのテーマである「大河と海上の道」を踏襲しながら、新たなテーマと切り口により、人々の歴史とその営みを明らかにします。

●石巻出身の彫刻家、高橋英吉の作品と生涯を辿る「高橋英吉コーナー」

将来の活躍を期待されながらも、若くして太平洋戦争の犠牲となった石巻出身の彫刻家 高橋英吉の生涯と作品を紹介します。

●豊富で多彩な資料を体感できる「毛利コレクションミュージアム」

毛利コレクションの全体像と主な資料を定期的に入れ替えながら展示とともに、テーマを設定したテーマ展や他の資料との比較展示等様々な活用ができるようにします。

●石巻人の多様性を紹介する「先人展示」

郷土石巻からは、多くの先人が輩出されています。これらの人々の足跡と業績を紹介できるようにします。

●市民活動の場としても活用する「企画展示」

企画展示では、歴史・文化・美術等様々なテーマのもと年数回の大規模な展覧会を行うとともに、市民活動の成果の発表の場としても利用し、常に活用される場とします。

2. 常設展示

◆基本的な考え方

**メインテーマ「大河と海上の道」をもとに、
人の暮らしの営みと背景にある歴史のドラマを伝える**

①人の暮らしの営みと背景にある歴史のドラマを伝えるストーリーの構築

石巻の歴史を通史的に紹介するが、特に各時代での当時の人々の暮らしやその時代の背景等にスポットをあてる。

展示の各時代は主に、既存のシンボル的な実物資料を活用した「ヒストリー展示」、時代毎に人の暮らし等の場面を再現した「情景展示」、実物資料・情報を更新しながら紹介する「資料・情報展示」により構成する。

②実物資料・情報の更新しやすい展示システムの導入

常設展示においても資料・情報を定期的に展示替えしやすいよう、壁面・ケース・パネル等容易に可変可能なシステムを導入する。

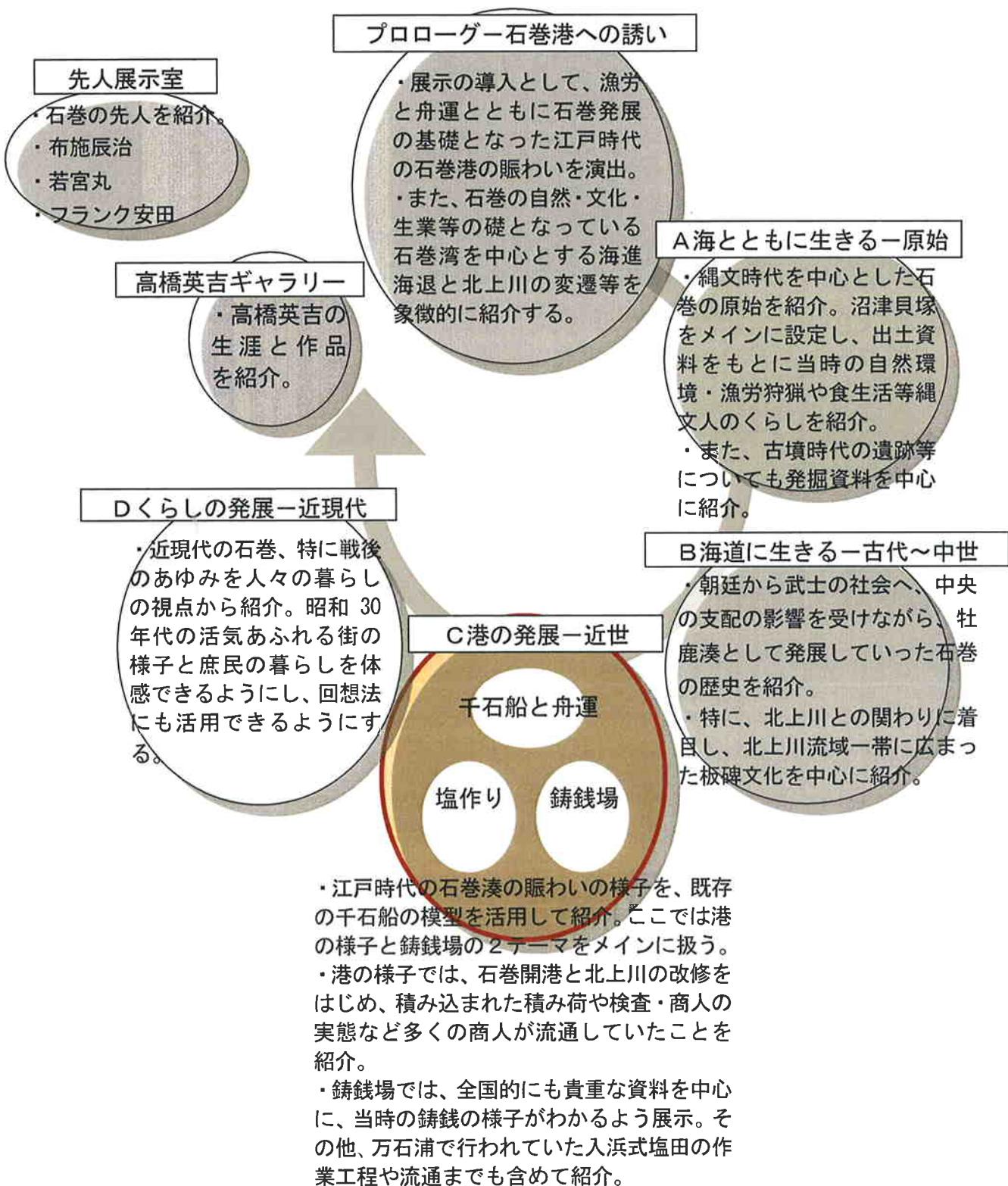
③毛利コレクションや他の資料との積極的な活用と可変性の高い展示

毛利コレクションや他の資料と組み合わせ比較展示等を行なながら、石巻の歴史の特徴をより明快になるようにする。

④歴史への興味を引き出す演出・体験型展示の導入

江戸時代や近現代等において時代やテーマを設定し、体験しながらその時代の暮らしを実感し現代と比較したり、より歴史への興味を引き出せるような映像演出等の展示を導入する。

◆展示構成



◆展示の概要

	ヒストリー展示	情景展示	体験展示	資料・情報展示
石巻港への誘い プロローグー		石巻港のにぎわい ・展示室導入にて石巻港で積み出しを行っているにぎわいを演出		○北上川・石巻港の変遷
A 海とともに生きる—原始	貝塚と貝層	貝塚人の暮らし ・浜辺にて貝掘りや漁をする縄文人、捨てられた貝が積み上げられている状況	・いろいろな貝を探してみる ・土器にさわってみる ・土器片を合わせてみる	○旧石器時代の石巻 ○縄文時代の地形・遺跡 ・沼津貝塚等考古資料 ○古墳時代の石巻 ・タッチパネルによる情報検索
B 海道に生きる —古代～中世	板碑の広がり	牡鹿湊のにぎわい ・北上川流域一体に広く見られる板碑をとおして、中世石巻の姿を紹介	・板碑の文字を見てみる ・板碑の石材をくらべてみる	○漁業と古代製塩 ・梨木畠貝塚等 ○牡鹿湊から石巻湊へ
C 港の発展—近世	千石船と舟運 鑄銭場 塩作り	千石船の積荷 ・千石船原寸断面模型を利用し、荷役の状況を再現 鑄銭場 ・全国的にも珍しい鑄銭場をメインとして紹介 浜のにぎわい ・塩作りに勤しむ作業の様子を演出	・俵の重さを持ってみる ・江戸までどのくらいかかるかみてみる ・昔のお金を触ってみる ・お金の価値をくらべてみる ・いろいろな塩を比べてみる ・塩作りの道具にさわってみる	○石巻開港 ・石巻絵図 ○北上川の改修 ○北上川舟運と東廻海運 ・タッチパネルによる情報検索 ○鑄銭の作業工程 ・工程絵巻 ・鑄銭の道具 ○塩づくり・塩田模型 ・塩作り道具 ・製塩地・塩の実物
D くらしの変遷 —近現代	昭和のくらし	大漁に沸く商店街 ・魚屋・乾物屋・蒲鉾屋 一般住宅 *季節展示を行う	・昭和の遊び体験 ・昭和出来事百科	○近代から現代へ ・石巻県・石巻商社 ・野蒜築港 ・北上川舟運 ・庶民の生活関連コレクション

高橋英吉コーナー		<p>○高橋英吉の生涯 ○作品紹介</p>		<ul style="list-style-type: none">・天平風俗人形・少女座像・猿・牛・黒潮閑日・潮音・彫刻刀 等
----------	--	---------------------------	--	--

3. 毛利コレクションミュージアム

毛利コレクションの魅力を多様なテーマをもとに展開可能な可変性の高い展示

◆基本的な考え方

- ①研修室を展示室に整備・改修する
- ②特に資料の環境に配慮し、空調設備・消火設備を整備する
- ③テーマは常設展示+企画展示により構成する
- ④企画展示のコレクションギャラリーでは展示替えが容易なシステムで整備する

◆展示の構成

A 毛利氏とコレクション

展示の導入部として毛利氏のコレクション収集のあゆみとその足跡を紹介。

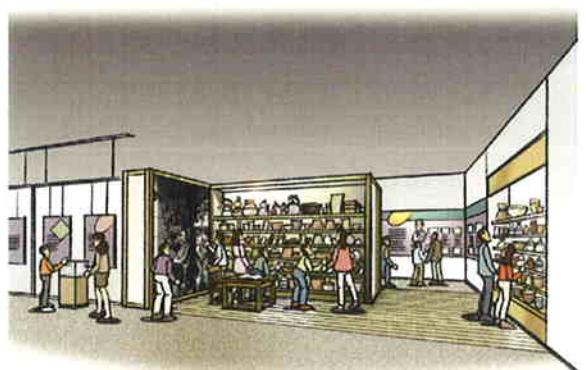
- ・毛利氏と略年表
- ・調査の足跡と調査地の概要



B コレクションの世界

毛利氏のコレクションを収蔵していた書斎を一部再現、その物量の臨場感を表現、また全体概要を紹介。

- ・毛利氏書斎一部再現
- ・コレクション全体概要・収集地一覧

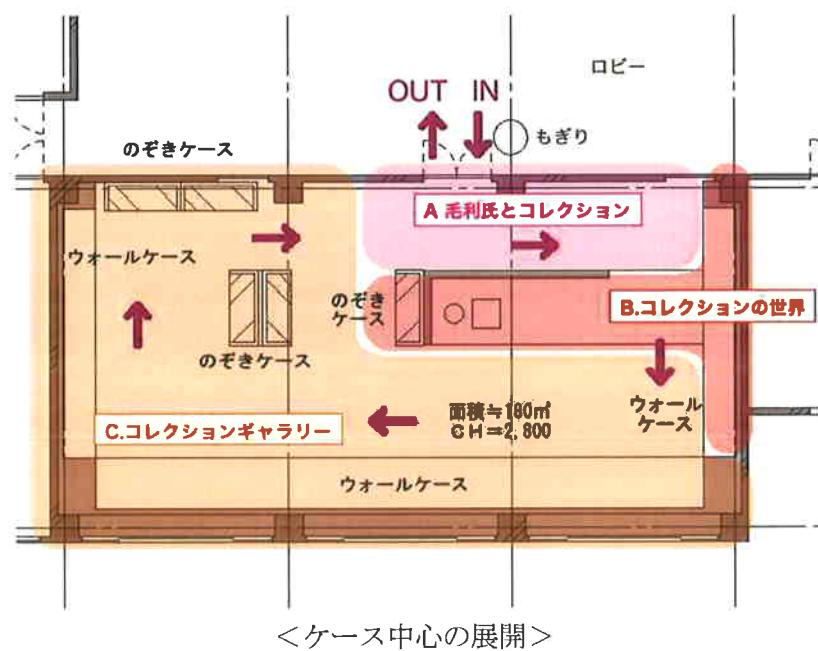
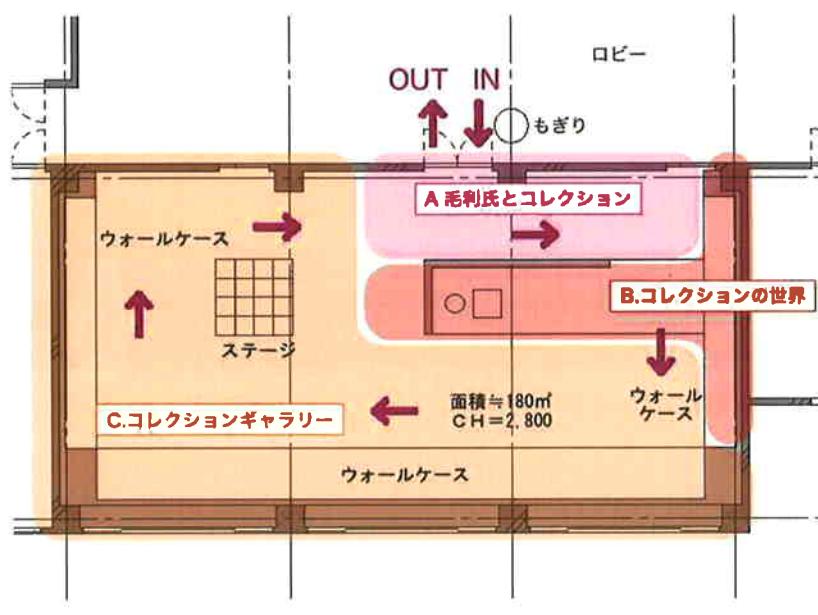


C コレクションギャラリー

- ・可変型展示システム・ケース
- 収蔵するコレクションと他の資料（借用物も含む）と組み合わせて、多様なテーマによる企画展の開催を想定。単なるコレクションの公開だけでなく、他との比較や時代的な変遷等が明らかになるようなテーマを設定する。



◆展開案



4. 先人展示

石巻の先人を様々な資料をもとに紹介

◆基本的な考え方

- ①トイレを石巻ゆかりの先人を紹介する展示室として整備する
- ②取り上げる先人としては、布施辰治・若宮丸関連・フランク安田等を扱う
- ③展示替えに対応したフレキシブルなシステムとする

◆テーマ構成案

①布施辰治

弁護士として「生きべくんば民衆とともに、死すべくんば民衆のために」のことばに代表される布施辰治の生涯と業績を紹介する。

- ・布施辰治の生涯
- ・関わった事件

②若宮丸

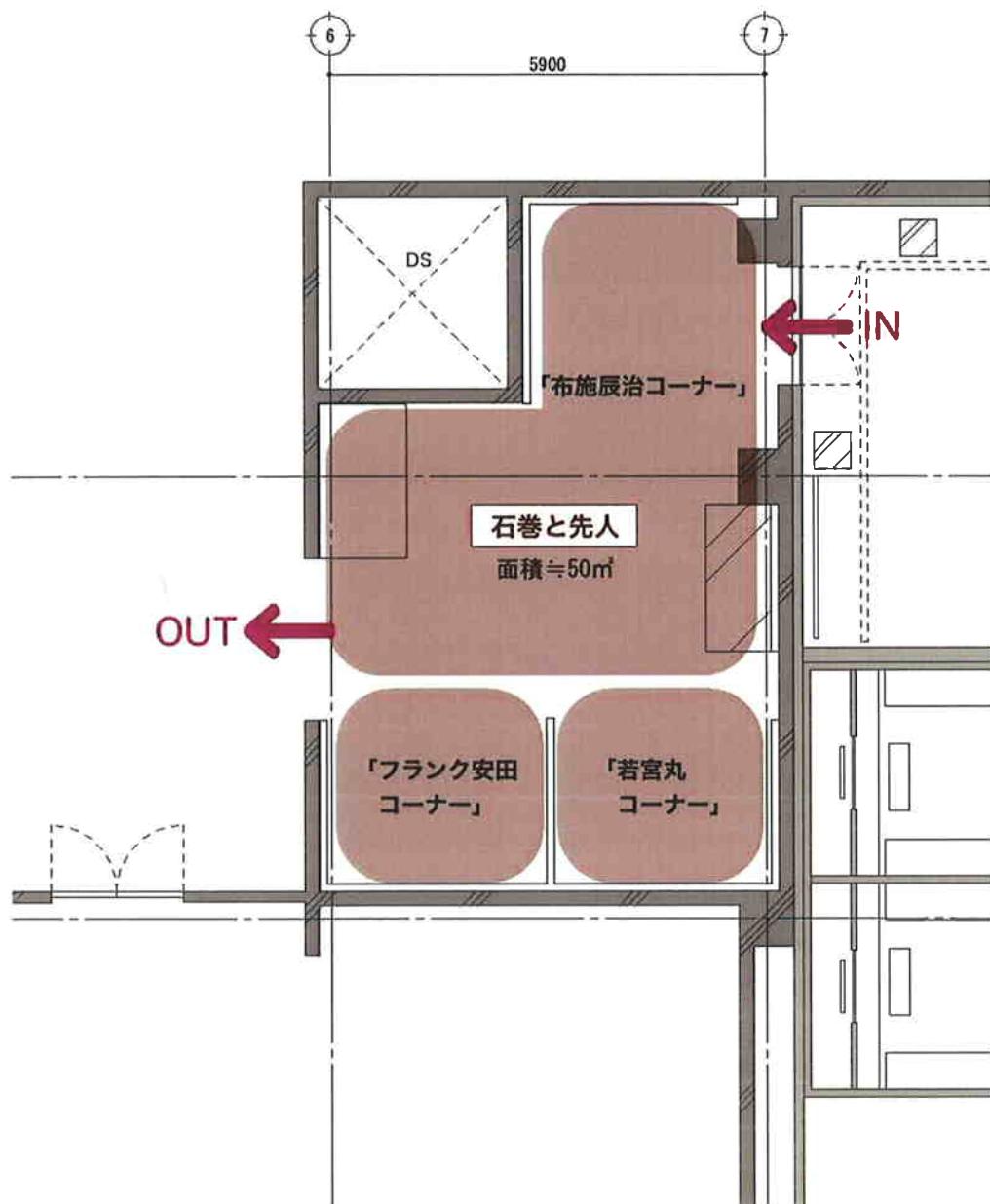
1793年石巻港を出航した若宮丸の乗組員たちは、その途中遭難。半年間の漂流の後、ロシアにたどり着き、遣日施設レザーノフとともに日本人として初めて世界一周をして帰国した様子を紹介する。

- ・若宮丸漂流の経緯
- ・「環海異聞」
- ・漂流民をとりまく人々
- ・漂流民の足跡

③フランク安田

明治の初めにアラスカに渡り、村人を連れて新天地を切り開き「アラスカのモーゼ」と呼ばれたフランク安田について紹介する。

◆展開案



5. 企画展示

更新性と作業効率を向上させる機能を充実

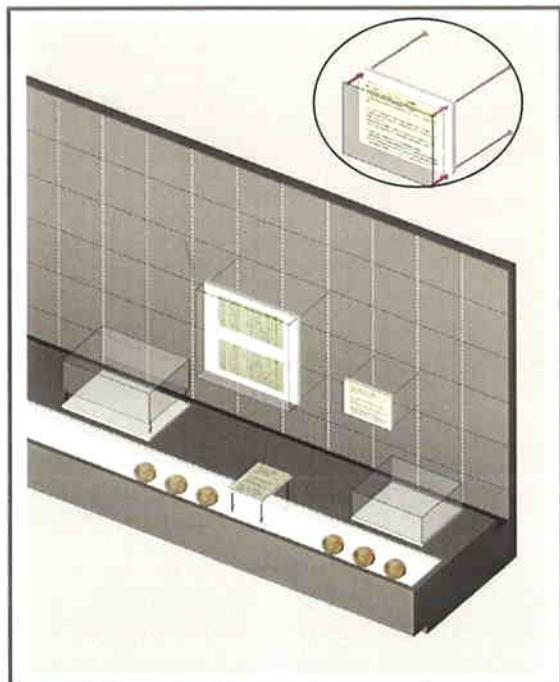
◆基本的な考え方

①展示替えの負担を軽減するシステムの見直し

様々なテーマに対応し展示替えが容易に行えるよう、移動の楽な間仕切り壁の設置や学芸員自身で展示更新可能なモジュール化したシステムを用意する。

②市民活動の発表の場としても利用できる柔軟な対応

館主催の企画展開催時期以外には、ミュージアムセンター等市民活動の発表の場としても利用可能にし、常に活用される場とする。



展示更新しやすい壁面システム

移動が容易な軽量の間仕切りシステム

